

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況 (2)地域活性化総合特区 ③アジア拠点化・国際物流分野(1/4)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
未来創造「新・ものづくり」特区 (静岡県浜松市)	4.1	4.8 進捗度 ・産地力の強化 157% ・企業立地による地域産業の振興及び雇用の拡大 120%	3.7 規制の特例等 ・市街化調整区域への企業立地に 係る農振法・農地法のガイドラインの弾力的運用 地域独自の取組 ・市独自の企業立地促進事業 ・耕作放棄地再生事業 ・企業立地奨励費 等	4.0	<p>・コロナ禍にもかかわらず、数値目標を達成している評価指標が去年より増えていることは評価できる。ただし、目標を大きく上回っている数値目標2-②や数値目標2-③については、大手企業の拠点工場の立地に起因する部分が多いようであり、その拠点工場以外でどの程度売り上げや新規雇用があったのかが気になる。逆に、数値目標2-①の件数については、累積では足りないものの、1年の目標値を達成していることから、新規企業の立地件数という観点からも評価できる。今後も安定的な産業の振興・雇用の拡大を図るためには、一部の企業・工場のみならずとも目標を達成することが必要であろう。</p> <p>・工業分野は、全ての数値目標を達成していることに加え、産業ロボット用の関節用途向け精密減速機において世界シェア6割を有する企業の拠点工場の誘致に成功しており、順調に事業が推進されている。また、今後同企業からの関連企業への正のスピルオーバーも期待される。農業分野において、売上の長期的な趨勢が減少である品目から成長が見込まれる品目への転換などを後押しするような施策が今後必要であろう。</p> <p>・産地力の強化については、特に農業参入企業の耕作面積は大きく増加しており継続した成果が挙げられている。地域独自の取組をベースに生産性向上・農業振興を目指す農業振興エリア整備や、農商工連携の取組が順調に結果につながっていることが高く評価できる。花きの販売減少など、全国的な需要減少が進捗に影響をおよぼしているとの分析がなされている。販売力の強化がカギとの指摘がなされているが、海外市場での競争力を有する農産品に強みを持つ本特区近隣地域と連携した取り組みを行い、近隣アジア諸国などへの海外市場への販売増加を模索することも選択肢の一つとなるのではないかと判断している。</p>